患者向医薬品ガイド

2026年9月更新

キイトルーダ点滴静注100mg

【この薬は？】

販売名	キイトルーダ点滴静注100mg KEYTRUDA Injection 100mg
一般名	ペムブロリズマブ（遺伝子組換え） Pembrolizumab (Genetical Recombination)
含有量/容量 (1バイアル中)	100mg/4mL

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

・この薬は、抗悪性腫瘍剤で、ヒト化抗ヒトＰＤ－１モノクローナル抗体製剤と呼ばれる注射薬です。

・この薬は、Ｔ細胞（免疫細胞）の受容体（ＰＤ－１）とがん細胞の作る物質（ＰＤ－Ｌ１およびＰＤ-Ｌ２）の結合を阻害し、Ｔ細胞の活性化を増強することで、腫瘍の増殖を抑えます。

・次の病気の人に処方されます。

悪性黒色腫
切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌
非小細胞肺癌における術前・術後補助療法
再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫
根治切除不能な尿路上皮癌

がん化学療法後に増悪した進行・再発の高頻度マイクロサテライト不安定性（ＭＳＩ－Ｈｉｇｈ）を有する固形癌（標準的な治療が困難な場合に限る）
根治切除不能又は転移性の腎細胞癌
腎細胞癌における術後補助療法
再発又は遠隔転移を有する頭頸部癌
局所進行頭頸部癌における術前・術後補助療法
根治切除不能な進行・再発の食道癌
治癒切除不能な進行・再発の高頻度マイクロサテライト不安定性（ＭＳＩ－Ｈｉｇｈ）を有する結腸・直腸癌
ＰＤ－Ｌ１陽性のホルモン受容体陰性かつＨＥＲ２陰性の手術不能又は再発乳癌
ホルモン受容体陰性かつＨＥＲ２陰性で再発高リスクの乳癌における術前・術後薬物療法
進行・再発の子宮体癌
がん化学療法後に増悪した高い腫瘍遺伝子変異量（ＴＭＢ－Ｈｉｇｈ）を有する進行・再発の固形癌（標準的な治療が困難な場合に限る）
進行又は再発の子宮頸癌
局所進行子宮頸癌
再発又は難治性の原発性縦隔大細胞型Ｂ細胞リンパ腫
治癒切除不能な進行・再発の胃癌
治癒切除不能な胆道癌
切除不能な進行・再発の悪性胸膜中皮腫
白金系抗悪性腫瘍剤抵抗性の再発卵巣癌

＜切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌＞
・この薬を単独で使用する場合、使用前にＰＤ-Ｌ１の発現を確認する検査が行われます。
＜根治切除不能な尿路上皮癌＞
・手術の補助療法としての有効性および安全性は確立していません。
＜がん化学療法後に増悪した進行・再発のＭＳＩ-Ｈｉｇｈを有する固形癌（標準的な治療が困難な場合に限る）＞
・この薬の使用前にＭＳＩ－Ｈｉｇｈを確認する検査が行われます。
・結腸・直腸癌以外の固形癌において、一次治療としての有効性および安全性は確立していません。また、二次治療において標準的な治療が可能な場合にはこれらの治療が優先されます。
・手術の補助療法としての有効性および安全性は確立していません。
＜根治切除不能な進行・再発の食道癌＞
・がん化学療法後に増悪したＰＤ－Ｌ１陽性の根治切除不能な進行・再発の食道扁平上皮癌において、この薬が単独で使用される場合には、この薬の使用前にＰＤ－Ｌ１の発現を確認する検査が行われます。
・手術の補助療法としての有効性および安全性は確立していません。
＜治癒切除不能な進行・再発のＭＳＩ－Ｈｉｇｈを有する結腸・直腸癌＞
・この薬の使用前にＭＳＩ－Ｈｉｇｈを確認する検査が行われます。
・手術後の補助療法としての有効性および安全性は確立していません。

＜ＰＤ－Ｌ１陽性のホルモン受容体陰性かつＨＥＲ２陰性の手術不能又は再発乳癌＞
・この薬の使用前にＰＤ-Ｌ１の発現を確認する検査が行われます。
＜進行・再発の子宮体癌＞
・手術後の補助療法としての有効性および安全性は確立していません。
＜がん化学療法後に増悪したＴＭＢ－Ｈｉｇｈを有する進行・再発の固形癌（標準的な治療が困難な場合に限る）＞
・この薬の使用前にＴＭＢ－Ｈｉｇｈを確認する検査が行われます。
・一次治療としての有効性および安全性は確立していません。また、二次治療において標準的な治療が可能な場合にはこれらの治療が優先されます。
・手術の補助療法としての有効性および安全性は確立していません。
＜進行又は再発の子宮頸癌＞
・手術後の補助療法としての有効性および安全性は確立していません。
＜局所進行子宮頸癌＞
・手術後の補助療法としての有効性および安全性は確立していません。
＜治癒切除不能な進行・再発の胃癌＞
・手術後の補助療法としての有効性および安全性は確立していません。
・ＨＥＲ２陽性の治癒切除不能な進行・再発の胃癌では、この薬の使用前にＰＤ-Ｌ１の発現を確認する検査が行われます。
＜治癒切除不能な胆道癌＞
・手術後の補助療法としての有効性および安全性は確立していません。
＜切除不能な進行・再発の悪性胸膜中皮腫＞
・手術の補助療法としての有効性および安全性は確立していません。
＜白金系抗悪性腫瘍剤抵抗性の再発卵巣癌＞
・手術の補助療法としての有効性および安全性は確立していません。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

〇患者さんまたは家族の方は、この薬の効果や注意すべき点について十分理解できるまで説明を受けてください。説明に同意した場合に使用が開始されます。
〇この薬により、間質性肺疾患があらわれ、死亡に至った例も報告されているため、胸部Ｘ線検査などが行われることがあります。
間質性肺疾患の初期症状（息切れ、呼吸困難、咳など）があらわれた場合には、ただちに医師に連絡してください。
〇次の人は、この薬を使用することはできません。
・過去にキイトルーダに含まれる成分で過敏症のあった人
〇次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に告げてください。
・自己免疫疾患のある人、または過去にあった人
・間質性肺疾患のある人、または過去にあった人
・臓器移植（造血幹細胞移植を含む）を受けた人
・結核のある人、または過去にあった人
・妊婦または妊娠している可能性のある人
・授乳中の人

【この薬の使い方は？】

この薬は注射薬です。

●使用量および回数

・ 使用量、使用回数、使用方法等は、あなたの症状などにあわせて、医師が決め、医療機関において注射されます。
・ 通常、成人の使用量および回数は、次のとおりです。

一回量	２００ｍｇ	４００ｍｇ
使用間隔	３週間間隔	６週間間隔
使用時間	３０分間かけて点滴します。	

・ 悪性黒色腫および腎細胞癌で手術後の補助療法として使用される場合は、投与期間は１２ヵ月間までとなります。
・ 非小細胞肺癌における術前・術後補助療法での投与回数は、３週間間隔投与の場合、手術前の補助療法は４回まで、手術後の補助療法は１３回まで、６週間間隔投与の場合、手術前の補助療法は２回まで、手術後の補助療法は７回までとなります。また、手術前の補助療法では、他の抗悪性腫瘍剤と併用されます。
・ 根治切除不能又は転移性の腎細胞癌、ＰＤ－Ｌ１陽性のホルモン受容体陰性かつＨＥＲ２陰性の手術不能又は再発乳癌、進行・再発の子宮体癌、進行又は再発の子宮頸癌、治癒切除不能な進行・再発の胃癌、切除不能な進行・再発の悪性胸膜中皮腫および白金系抗悪性腫瘍剤抵抗性の再発卵巣癌では、他の抗悪性腫瘍剤と併用されます。
・ 局所進行頭頸部癌における術前・術後補助療法での投与回数は、３週間間隔投与の場合、手術前の補助療法は２回まで、手術後の補助療法は１５回まで、６週間間隔投与の場合、手術前の補助療法は１回まで、手術後の補助療法は８回までとなります。また、手術後の補助療法では、放射線療法又はシスプラチンを用いた化学放射線療法と併用されます。
・ 根治切除不能な進行・再発の食道癌では、フルオロウラシルおよびシスプラチンと併用されます。また、がん化学療法後に増悪したＰＤ－Ｌ１陽性の根治切除不能な進行・再発の食道扁平上皮癌では、この薬が単独で使用されることもあります。
・ ホルモン受容体陰性かつＨＥＲ２陰性で再発高リスクの乳癌における術前・術後薬物療法での投与回数は、３週間間隔投与の場合、手術前の薬物療法は８回まで、手術後の薬物療法は９回まで、６週間間隔投与の場合、手術前の薬物療法は４回まで、手術後の薬物療法は５回までとなります。
・ 局所進行子宮頸癌では、シスプラチンを用いた同時化学放射線療法と併用されます。投与期間は２４ヵ月間までとなります。
・ 治癒切除不能な胆道癌では、ゲムシタビン塩酸塩およびシスプラチンと併用されます。
・ 根治切除不能な尿路上皮癌において、エンホルツマブ　ベドチン（遺伝子組換え）以外の抗悪性腫瘍剤との併用について、有効性および安全性は確立していません。また、白金系抗悪性腫瘍剤を含む化学療法の適応となる化学療法未治療患者に対するこの薬の単独投与の有効性および安全性は確立していません。
・ 進行・再発の子宮体癌において、レンバチニブとの併用について、一次治療に

おける有効性および安全性は確立していません。
- 切除不能な進行・再発の悪性胸膜中皮腫において、カルボプラチンおよびペメトレキセドナトリウムと併用される場合、通常、成人には、３週間間隔で、カルボプラチンは１回ＡＵＣ ５～６ｍｇ･ｍｉｎ／ｍＬ相当量を３０分以上、ペメトレキセドナトリウムは１回５００ｍｇ／m^2を１０分間かけて点滴します。
- 白金系抗悪性腫瘍剤抵抗性の再発卵巣癌において、パクリタキセルと併用される場合、通常、成人には、１週間間隔で、パクリタキセルは１日１回８０ｍｇ／m^2を１時間かけて点滴します。
- 悪性黒色腫、再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫、がん化学療法後に増悪した進行・再発のＭＳＩ－Ｈｉｇｈを有する固形癌（標準的な治療が困難な場合に限る）、腎細胞癌における術後補助療法、治癒切除不能な進行・再発のＭＳＩ－Ｈｉｇｈを有する結腸・直腸癌、がん化学療法後に増悪したＴＭＢ－Ｈｉｇｈを有する進行・再発の固形癌（標準的な治療が困難な場合に限る）および再発又は難治性の原発性縦隔大細胞型Ｂ細胞リンパ腫において、他の抗悪性腫瘍剤との併用について、有効性および安全性は確立していません。
- 副作用により、この薬を休薬または中止することがあります。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

・この薬のＴ細胞を活性化させる作用により、過度の免疫反応と考えられる疾患や病態があらわれることがあります。また、使用後にも重篤な副作用があらわれることがあります。異常を感じたら、ただちに医師に連絡してください。

・間質性肺疾患があらわれることがあるので、初期症状（息切れ、呼吸困難、咳など）があらわれた場合には、ただちに医師に連絡してください。胸部Ｘ線検査などが行われ、必要に応じて胸部ＣＴ、血清マーカーなどの検査が行われることがあります。

・甲状腺機能障害、下垂体機能障害および副腎機能障害があらわれることがあるので、この薬を使用している間は定期的に内分泌機能検査が行われます。また、画像検査などの検査が行われることがあります。

・劇症肝炎、肝不全、肝機能障害、肝炎、硬化性胆管炎があらわれることがあるので、この薬を使用している間は定期的に、特に、アキシチニブと併用される場合は頻回に肝機能検査が行われます。

・１型糖尿病があらわれることがあるので、この薬を使用している間は定期的に血糖値検査が行われます。

・腎障害があらわれることがあるので、定期的に腎機能検査が行われます。

・筋炎、横紋筋融解症があらわれることがあるので、ＣＫ、血中および尿中ミオグロビンなどの検査が行われることがあります。

・心筋炎があらわれることがあるので、ＣＫ、心電図などの検査が行われることがあります。

・ぶどう膜炎などの眼の異常があらわれることがあります。眼の異常を感じたら速やかに医療機関を受診してください。この薬を使用している間は定期的に眼の異常の有無が確認されます。

・妊婦または妊娠している可能性がある人は医師に相談してください。

・妊娠する可能性がある女性は、この薬を使用している間および使用終了から４ヵ月間は適切な避妊を行ってください（この薬と同様の作用を有する薬の動

物実験で、流産率の増加が認められています）。
・授乳している人は医師に相談してください。
・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意いただきたい重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。
このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
間質性肺疾患 かんしつせいはいしっかん	咳、息切れ、息苦しい、発熱
大腸炎、小腸炎 だいちょうえん、しょうちょうえん	発熱、お腹が張る、腹痛、水のような便が出る、便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色）、激しい腹痛、吐き気、嘔吐（おうと）、寒気、ふらつき、息切れ、意識の低下、便やおならが出にくい
重度の下痢 じゅうどのげり	何度も水のような便が出る、下腹部の痛み、体がだるい、発熱
中毒性表皮壊死融解症（ＴＥＮ） ちゅうどくせいひょうひえしゆうかいしょう（テン）	皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、発熱、粘膜のただれ
皮膚粘膜眼症候群（スティーブンス－ジョンソン症候群） ひふねんまくがんしょうこうぐん（スティーブンス-ジョンソンしょうこうぐん）	発熱、目の充血やただれ、唇や口内のただれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する
多形紅斑 たけいこうはん	円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する、発熱、関節の痛み、喉の痛み
類天疱瘡 るいてんぽうそう	全身の皮膚に少し押した程度では破れない大小の水ぶくれ（水疱）が多発する、じんま疹の様な痒くて赤い発疹をともなうことがある、ごくまれに粘膜が癒着することがある
神経障害 しんけいしょうがい	［末梢性ニューロパチー］ 手足のしびれ、痛み、力が入らない、筋萎縮、手足のふるえ ［ギラン・バレー症候群］ 両側の手や足に力が入らない、歩行時につまずく、階段を昇れない、物がつかみづらい、物が二重に見える、手足の感覚が鈍くなる、顔の筋肉がまひする、食べ物が飲み込みにくい、呼吸が苦しい
劇症肝炎 げきしょうかんえん	急な意識の低下、白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、体がかゆくなる、尿の色が濃くなる、お腹が張る、急激に体重が増える、血を吐く、便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色または黒色）

重大な副作用	主な自覚症状
肝不全 かんふぜん	意識の低下、白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、体がかゆくなる、尿の色が濃くなる、お腹が張る、急激に体重が増える、血を吐く、便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色または黒色）
肝機能障害、肝炎 かんきのうしょうがい、かんえん	疲れやすい、体がだるい、力が入らない、吐き気、嘔吐、食欲不振、発熱、上腹部痛、白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、体がかゆくなる、尿の色が濃くなる
硬化性胆管炎 こうかせいたんかんえん	発熱、白目が黄色くなる、腹痛、皮膚が黄色くなる
甲状腺機能障害 こうじょうせんきのうしょうがい	［甲状腺機能亢進症］ 動悸（どうき）、脈が速くなる、手指のふるえ、体重が減る、汗をかきやすい、イライラする、微熱 ［甲状腺機能低下症］ 疲れやすい、まぶたが腫れぼったい、寒がり、体重が増える、いつも眠たい、便秘、かすれ声、脱毛
下垂体機能障害 かすいたいきのうしょうがい	頭痛、見えにくい、体がだるい、疲れやすい、食欲不振、意識の低下、血圧低下、性欲がでない、無月経、喉が渇く、体重が減る、皮膚の乾燥、水を多く飲む、尿量が増える
副腎機能障害 ふくじんきのうしょうがい	体がだるい、意識の低下、意識の消失、嘔吐、食欲不振、発熱、冷汗が出る、顔面蒼白（そうはく）、手足が冷たくなる
１型糖尿病 いちがたとうにょうびょう	体がだるい、体重が減る、喉が渇く、水を多く飲む、尿量が増える、吐き気、甘酸っぱいにおいの息、深く大きい呼吸
腎障害 じんしょうがい	尿量が減る、むくみ、体がだるい ［尿細管間質性腎炎］ 発熱、発疹、関節の痛み、吐き気、嘔吐、下痢、腹痛、むくみ、尿量が減る ［糸球体腎炎］ 尿量が減る、排尿時の尿の泡立ちが強い、息苦しい、尿が赤みを帯びる、むくみ、体がだるい
膵炎 すいえん	強い腹痛、背中の痛み、お腹が張る、吐き気、嘔吐、体重が減る、喉が渇く、尿量が増える、皮膚が黄色くなる、油っぽい下痢が出る
膵外分泌機能不全 すいがいぶんぴつきのうふぜん	油が浮いたり、すっぱいにおいのする柔らかい便が出る、下痢、便の回数が増える、体重が減る、腹痛、お腹が張る
筋炎 きんえん	筋力の低下、筋肉の痛み・はれ・熱感
横紋筋融解症 おうもんきんゆうかいしょう	手足のこわばり、手足のしびれ、脱力感、筋肉の痛み、尿が赤褐色になる
重症筋無力症 じゅうしょうきんむりょくしょう	まぶたが重い、まぶたが下がる、物がだぶって見える、筋肉の疲労感、食べ物が飲み込みにくい
心筋炎 しんきんえん	体がだるい、発熱、息苦しい、息切れ、動悸、胸の痛み、むくみ

重大な副作用	主な自覚症状
脳炎 のうえん	発熱、まひ、意識の低下、頭痛
髄膜炎 ずいまくえん	発熱、頭痛、吐き気、嘔吐、首のうしろがこわばり固くなって首を前に曲げにくい
脊髄炎 せきずいえん	発熱、両足のしびれ・まひ、腰・背中の痛み、尿が出にくい、尿失禁、便が出にくい、便失禁
多発性硬化症の増悪 たはつせいこうかしょうのぞうあく	けいれん、目を自由に動かせない、見えにくい、二重に見える
視神経脊髄炎スペクトラム障害 ししんけいせきずいえんすぺくとらむしょうがい	見えにくい、目のかすみ、視野が欠けて狭くなる、目の痛み、色が見分けにくい、けいれん、手足のしびれ・まひ、尿失禁、便失禁、尿が出にくい、便が出にくい、尿が残っている感じがする
重篤な血液障害 じゅうとくなけつえきしょうがい	発熱、寒気、喉の痛み、鼻血、歯ぐきからの出血、あおあざができる、出血が止まりにくい、頭が重い、動悸、息切れ [免疫性血小板減少症] 鼻血、唾液・痰に血が混じる、血を吐く、歯ぐきからの出血、あおあざができる、出血が止まりにくい [溶血性貧血] 体がだるい、めまい、息切れ、白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる [赤芽球癆（せきがきゅうろう）] 体がだるい、めまい、頭痛、耳鳴り、動悸、息切れ [無顆粒球症（むかりゅうきゅうしょう）] 突然の高熱、寒気、喉の痛み
重度の胃炎 じゅうどのいえん	吐き気、嘔吐、胃がむかむかする、胃もたれ、食欲不振、腹痛
重度の食道炎 じゅうどのしょくどうえん	飲み込みにくい、飲み込むときの痛み、嘔吐、みぞおちの痛み、胸やけ、すっぱいものが上がってくる
ぶどう膜炎 ぶどうまくえん	目のかすみ、視力の低下、視界にごみや虫のようなものが飛んでいるように見える、まぶしい、目の痛み、目の充血

重大な副作用	主な自覚症状
血管炎 けっかんえん	発熱、手足のしびれ、皮下出血によるあざ、皮膚の潰瘍（皮膚に穴ができた状態） ［大型血管炎］ 発熱、体がだるい、疲れやすい、体重が減る、頭痛、首など様々な部位の痛み ［中型血管炎］ 発熱、体がだるい、体重が減る、頭痛、手足のしびれ、関節痛、腹痛、皮下出血によるあざ、皮膚の潰瘍（皮膚に穴ができた状態）、筋力の低下、筋肉の痛み ［抗好中球細胞質抗体（ANCA）関連血管炎］ 血尿、鼻水、鼻づまり、咳、喉の痛み、発熱、皮下出血によるあざ、皮膚の潰瘍（皮膚に穴ができた状態） ［IgA 血管炎］ 皮下出血によるあざ、関節痛、腹痛、血尿
血球貪食症候群 けっきゅうどんしょくしょうこうぐん	発熱、発疹、意識の低下、けいれん、異常な行動、リンパ節（首、わきの下、股の付け根など）のはれ、体がだるい、出血が止まりにくい
結核 けっかく	寝汗をかく、体重が減る、体がだるい、微熱、咳が続く
インフュージョンリアクション※ ※この薬を含むモノクローナル抗体製剤と呼ばれる注射薬を点滴したときや点滴した後におこることがある体の反応で、過敏症やアレルギーのような症状があらわれます。	［インフュージョンリアクション(アナフィラキシーを含む)］ 呼吸困難、意識の低下、意識の消失、まぶた・唇・舌のはれ、発熱、寒気、嘔吐、咳、めまい、動悸、全身のかゆみ、じんま疹、喉のかゆみ、ふらつき、息苦しい ［サイトカイン放出症候群］ 吐き気、胃がむかむかする、頭痛、めまい、胸の痛み、動悸、脱力感、発疹、唇が青紫色になる、苦しくて早い呼吸、発熱、体がだるい、ふらつき、頭が重い、鼻血、息切れ、あおあざができる、耳鳴り、歯ぐきからの出血

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。
これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	発熱、突然の高熱、体がだるい、痛み、力が入らない、疲れやすい、体がかゆくなる、体重が減る、汗をかきやすい、微熱、寒がり、体重が増える、急激に体重が増える、冷汗が出る、むくみ、脱力感、まひ、出血が止まりにくい、寒気、けいれん、リンパ節（首、わきの下、股の付け根など）のはれ、寝汗をかく、ふらつき、食欲不振、首など様々な部位の痛み
頭部	イライラする、いつも眠たい、脱毛、頭痛、意識の低下、急な意識の低下、性欲がでない、意識の消失、めまい、頭が重い、異常な行動、首のうしろがこわばり固くなって首を前に曲げにくい
顔面	顔の筋肉がまひする、顔面蒼白、鼻血、まぶた・唇・舌のはれ、鼻水、鼻づまり
眼	目の充血やただれ、白目が黄色くなる、まぶたが腫れぼったい、見えにく

部位	自覚症状
	い、まぶたが重い、まぶたが下がる、物がだぶって見える、目のかすみ、視力の低下、視界にごみや虫のようなものが飛んでいるように見える、まぶしい、目の痛み、物が二重に見える、目の充血、目を自由に動かせない、二重に見える、視野が欠けて狭くなる、色が見分けにくい
耳	耳鳴り
口や喉	咳、咳が続く、唇や口内のただれ、食べ物が飲み込みにくい、吐き気、嘔吐、かすれ声、喉が渇く、水を多く飲む、歯ぐきからの出血、喉の痛み、甘酸っぱいにおいの息、喉のかゆみ、血を吐く、唾液・痰に血が混じる、唇が青紫色になる、飲み込みにくい、飲み込むときの痛み
胸部	息切れ、息苦しい、呼吸が苦しい、動悸、胸の痛み、呼吸困難、深く大きい呼吸、胸やけ、すっぱいものが上がってくる、苦しくて早い呼吸
腹部	お腹が張る、腹痛、強い腹痛、激しい腹痛、下腹部の痛み、上腹部痛、胃がむかむかする、胃もたれ、みぞおちの痛み
背中	背中の痛み、腰・背中の痛み
手・足	関節の痛み、手足のしびれ、手足のふるえ、両側の手や足に力が入らない、歩行時につまずく、手足の感覚が鈍くなる、手指のふるえ、手足が冷たくなる、手足のこわばり、物がつかみづらい、脈が速くなる、両足のしびれ・まひ、手足のしびれ・まひ、関節痛
皮膚	円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する、全身の皮膚に少し押した程度では破れない大小の水ぶくれ（水疱）が多発する、じんま疹の様な痒くて赤い発疹をともなうことがある、皮膚が黄色くなる、皮膚の乾燥、あおあざができる、発疹、全身のかゆみ、じんま疹、皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、粘膜のただれ、皮下出血によるあざ、皮膚の潰瘍（皮膚に穴ができた状態）
筋肉	筋萎縮、階段を昇れない、筋力の低下、筋肉の痛み・はれ・熱感、筋肉の痛み、筋肉の疲労感
便	水のような便が出る、便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色）、便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色または黒色）、何度も水のような便が出る、便秘、下痢、油っぽい下痢が出る、便やおならが出にくい、便が出にくい、便失禁、油が浮いたり、すっぱいにおいのする柔らかい便が出る、便の回数が増える
尿	尿の色が濃くなる、尿量が増える、尿量が減る、尿が赤褐色になる、排尿時の尿の泡立ちが強い、尿が赤みを帯びる、尿が出にくい、尿失禁、尿が残っている感じがする、血尿
生殖器	無月経
その他	ごくまれに粘膜が癒着することがある、血圧低下

【この薬の形は？】

性状	無色～微黄色で澄明～乳白色の液
形状	

【この薬に含まれているのは？】

有効成分	ペムブロリズマブ（遺伝子組換え）
添加剤	Ｌ－ヒスチジン、Ｌ－ヒスチジン塩酸塩水和物、精製白糖、ポリソルベート８０

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。

・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：ＭＳＤ株式会社（https://www.msd.co.jp）

ＭＳＤカスタマーサポートセンター

フリーダイヤル：０１２０－０２４－９６４

受付時間：９：００～１７：３０

（土日祝日・製造販売会社休日を除く）